

## 第4回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会

第4回日本気象学会ジュニアセッションを、2018年度春季大会の4日目（5月19日（土））に、大会ポスター会場（つくば国際会議場多目的ホール）にて、ポスターセッション方式で開催した。ジュニア世代に発表の場を提供する、という社会貢献を目的とし、大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待している。

今回は、北海道より熊本県まで11都道府県の11校から16件の発表があり、生徒47名、引率および同行者15名、計62名が来場した（第1図）。控え室にて事前説明や発表認定証交付を行ったあと（第2図）、ポスター会場にて中高生同士の発表（40分）と一般会員を交えた発表（60分）を行い、熱心な発表と質疑・コメントが交わされた（第3図）。第1回～第3回と同様に多くの一般会員に来場していただいた。ポスター発表

の内容は、気温や雨の観測、雷といった身近な気象に関するテーマだけでなく、古気候やエルニーニョ、生物気象や流体実験など幅広いテーマに跨っていた。いずれもよくまとめられていて、レベルの高い発表であった。学校における日頃からの調べ学習指導の成果が出ているものと考えられる。ポスターセッション後には希望者を対象にDr.ナダレンジャーによる防災科学実験教室を開催した。「身近な自然災害を“感性”でとらえる」というコンセプトで、雪崩、液



第1図 発表者全員と理事長・委員長の集合写真。



第2図 理事長による発表認定証交付。



第3図 ポスター会場での発表の様子。

状化現象，地震などについて手作りの模型をふんだんに使用した体験を通し，災害の発生メカニズムや防災の心構えを楽しく学んだ（第4図）。

参加者アンケートでは今回も「専門家からのアドバイスをもらえた」「他校の発表を聞いて勉強になった」という回答が多数寄せられた。このような発表機会の活用希望は毎回非常に高く、「楽しかった」「またやりたい」との回答も多かった。全体として好評だったといえ、「大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心を高める」という目的がよく達成されていることが視われる。

今回より公益社団法人全国高等学校文化連盟に加えて，文部科学省と茨城県教育委員会から後援をいただいた。また，小倉基金による旅費の助成制度が始まり，遠方から参加しやすい環境が整えられた。今後ますます参加が促進されると期待している。今後も継続的に開催して，ジュニア世代に気象学の裾野を広げて行きたい。ジュニアセッションの開催に当たっては，講演企画委員会と大会実行委員会には，会場の確保を始めとして多大なご協力をいただいた。参加者の募集等では日本気象予報士会にご協力いただいた。また，多くの一般会員の皆さんがジュニアセッションを楽し



第4図 Dr.ナダレンジャーの防災科学実験教室の様子。

みにしていただき，会場に足を運んで中高生の発表に真摯に議論して下さった。ここに改めて，大会実行委員会，講演企画委員会，日本気象予報士会，日本気象学会会員皆様のご協力に対し，謝意を表したい。なお，これまでの開催状況を気象学会ホームページに掲載しているのので，参照されたい ([https://www.metsoc.jp/about/educational\\_activities/junior\\_session](https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session))。